「見て」「聞いて」「感じて」自分を守る。家族を守る。

ハカルワカル広場 お茶会 開催

5月のお茶会 講演会

東電福島第一原発からの海洋放出
太平洋諸島からの反対の声

講師　竹峰誠一郎さん

5月13日（土）　10:00～12:00

太平洋諸島からあがっている反対や懸念の声を紹介します。その声をどう理解し、とらえていけばいいのか、さらにどう応えていけばいいのかを考える機会になればと思います。

zoom

オンライン講演会（ハカルワカル広場にても参加可）
参加の URL は当日9:30に HP に発表します。

ハカルワカル広場　案内地図

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室
ハカルワカル広場

お電話問合せ　〒192-0053 東京都八王子市八幡町 5-11 八中ビル 2F
042-686-0820

HP: https://hachisoku.org　メール：hachisoku@gmail.com

ボランティア、維持会員募集中！
お問い合わせはハカルワカル広場まで

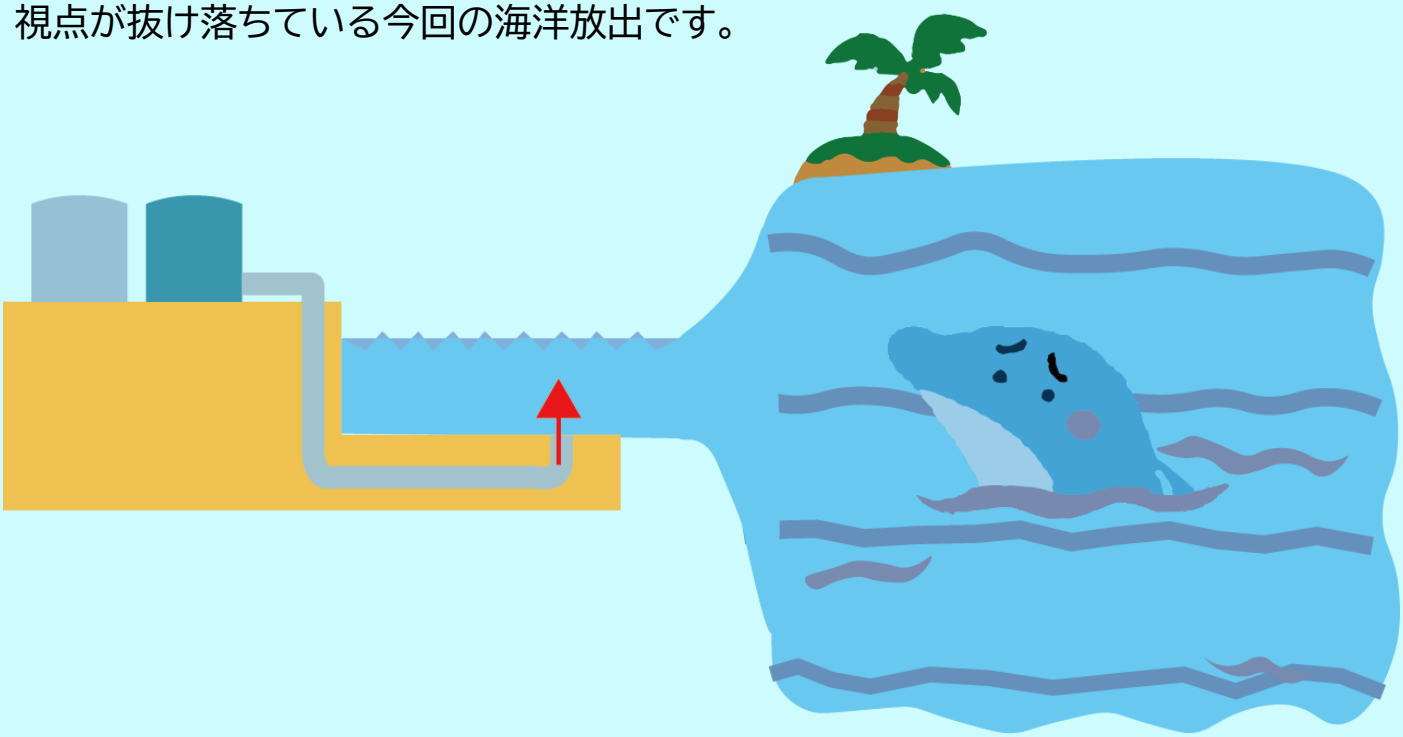
寄付も大歓迎です！　ゆうちょ銀行　00180-8-290904（八王子市民放射能測定室）
他行からの振込は　018-0224460（八王子市民放射能測定室）

講演をいただく竹峰誠一郎さんは　核被害が広島・長崎だけではなく、また第五福竜丸だけでなく、太平洋のマーシャル諸島の方たちも、またカザフスタンの方たちも同様の核被害を受けているとの視点から研究をされています。

今回の東電福島第一原発の汚染水の太平洋への放出も日本だけの国内問題でなく、世界の、地球の問題としてとらえ、サイパン島とテニアン島へフィールドワークに赴かれました。現地の生の声を聴く貴重な機会です。

トリチウム汚染水の海洋放出は風評ではなく実害です。トリチウムも有機結合トリチウムとなると体内で遺伝子を切断する危険なものとなりますし(会報 37 号　河田昌東さんの解説参照)、それ以外の核種(ストロンチウム 90、炭素 14 など)も基準値を超えて汚染水には含まれています。

そして、海に放出されると微小なプランクトンに摂取され、食物連鎖でより大きな魚、最後は人間へと吸収されるのです。生物、人間への影響を考えるべきです。この視点が抜け落ちている今回の海洋放出です。



竹峰　誠一郎(たけみね　せいいちろう)

明星大学人文学部人間社会学科教授。大学 4 年生からマーシャル諸島に通い続け、世界の核被災地の現場にこだわったフィールドワーク調査を進める。専門は国際社会学、平和学、博士(学術)。第五福竜丸平和協会専門委員などを務める。主な著書は『マーシャル諸島　終わりなき核被害を生きる』(新泉社、2015 年)
https://www.shinsensha.com/books/732/

最新の論文に「世界の核実験被害補償制度の掘り起こしと国際比較研究――核兵器禁止条約を踏まえて」(『環境と公害』50 巻 2 号、岩波書店、2020 年 10 月)がある。